

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グッドマン愛知工場	階数	地上 3F
建設地	瀬戸市塩草町128、129-1、132-20、142-3、148-2	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条区域	平均居住人員	400 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2018年5月22日
敷地面積	45,132 m <sup>2</sup>	作成者	中央設備エンジニアリング(株)
建築面積	6,709 m <sup>2</sup>	確認日	2018年5月24日
延床面積	13,499 m <sup>2</sup>	確認者	中央設備エンジニアリング(株)



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

音環境	3.0
温熱環境	2.2
光・視環境	3.5
空気質環境	4.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

機能性	2.8
耐用性	3.6
対応性	4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.8

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.9
効率的	2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化	3.4
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

**3.4**

#### ③敷地内の緑化

**2.0**

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	32.5 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

#### ②資源の有効活用

**3.7**

#### ④地域材の活用

**1.0**

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>														<b>3.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>														<b>3.1</b>	
<b>1 音環境</b>															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
<b>2 温熱環境</b>															
2.1 室温制御														2.2	
1 室温														3.5	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														5.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														1.0	
<b>3 光・視環境</b>															
3.1 昼光利用														3.5	
1 昼光率														4.2	
2 方位別開口														5.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														4.0	
3.4 照明制御														3.0	
<b>4 空気質環境</b>															
4.1 発生源対策														4.3	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														4.0	
1 換気量														4.3	
2 自然換気性能														4.0	
3 取り入れ外気への配慮														5.0	
4.3 運用管理														5.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視														-	
2 喫煙の制御														5.0	
<b>Q2 サービス性能</b>															
<b>1 機能性</b>															
1.1 機能性・使いやすさ														2.8	
1 広さ・収納性														2.0	
2 高度情報通信設備対応														1.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														5.0	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>															
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.6	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.8	
2 免震・制震・制振性能														4.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														3.8	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														5.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														2.8	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				4.2	0.29				4.2	
<b>3.1 空間のゆとり</b>		②	<事>階高:基準階階高=5.4m>3.9m <工>平均階高:5.11m>3.9m 非住居系壁長さ比率:0.098 <事>施行令程度、<工>施行令の50%増し以上 面積加重平均:4.78	5.0	0.31					
1 階高のゆとり				5.0	0.60					
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40					
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				5.0	0.31					
<b>3.3 設備の更新性</b>				3.0	0.38					
1 空調配管の更新性				3.0	0.17					
2 給排水管の更新性		3.0	0.17							
3 電気配線の更新性		3.0	0.11							
4 通信配線の更新性		3.0	0.11							
5 設備機器の更新性		3.0	0.22							
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.39				2.5	
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30				2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.1	
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				2.8	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> =0.69	5.0	0.03				5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27				3.0	
3 設備システムの高効率化				2.9	0.42				2.9	
4 効率的運用				2.5	0.28				2.5	
集合住宅以外の評価				2.5	1.00				-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50				-	
集合住宅の評価				-	-				-	
4.1 モニタリング				-	-				-	
4.2 運用管理体制				-	-				-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				3.6	
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15				3.4	
1.1 節水			節水コマ+省水型器具を採用	4.0	0.40				-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.7	0.63				3.7	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07				-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生クラッシュラン(路盤材)、OAFロア	4.0	0.21				-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	分別しやすいボード下地構成+再利用できるユニット部材	5.0	0.25				-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.6	0.22				3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68				-	
1 消火剤				-	-				-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつGWP=1の発泡断熱材を採用	5.0	0.50				-	
3 冷媒				3.0	0.50				-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				3.1	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2値:88%	3.4	0.33				3.4	
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.0	0.33				3.0	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25				-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車・駐輪スペース、荷物スペースの確保、導入路への配慮	5.0	0.25				-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25				-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.0	0.33				3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-	
1 騒音		独自		3.0	1.00				-	
2 振動		独自		-	-				-	
3 悪臭				-	-				-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-	
1 風害の抑制				3.0	0.70				-	
2 砂塵の抑制				-	-				-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-	

**重点項目スコアシート**

グッドマン愛知工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:32.51%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	建物の長寿命化と省エネルギー対策、地球温暖化防止に配慮している。
Q1 室内環境	断熱性能の高い外壁材の使用、屋根裏の断熱材設置等により空調負荷の低減に努めている。化学汚染物質にも配慮している。
Q2 サービス性能	耐用年数の永い配管配線材料を採用し、ライフラインである水・電気・通信などの防災対策に配慮している。将来の用途変更可能性などを考慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地周囲に緑地を効果的に配置し、植栽に親しむことができるように配慮している。
LR1 エネルギー	高効率機器の採用で設備システムの高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	節水器具や省水型機器を採用し、水資源の保護に努めている。分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2を削減し、地球温暖化防止を図っている。
その他	特になし。